平成２３年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １３２	**提案機関名**	自然環境保全センター自然保護公園部野生生物課

要望問題名　ニホンジカの生息地における植生回復の目標と指標作成のためのモニタリングの実施について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

平成24年度の第3期シカ保護管理計画の策定に向けて、委託調査の実施とデータの解析を進めているところであるが、現行計画における植生回復目標の「植生劣化レベル」がわかりにくいという指摘や、管理捕獲後の植生の推移を表す指標がないという指摘が学識経験者や庁内関係者からあげられている。そこで、これまでの委託データの解析を進めるとともに、わかりやすい目標とシカの密度と連動した植生回復の指標作成、場合により補足調査等を実施する課題設定をお願いしたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究企画部研究連携課

対応区分　①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）ニホンジカの効果的な管理技術の開発（H19～）

対応の内容等

本要望については上記課題のなかで、あるいは外部資金を獲得して実施に向けて調整していきます。

シカの影響による丹沢山地の植生衰退とそれに伴う森林の諸機能の低下は「丹沢大山自然再生計画」と「かながわ水源環境保全・再生施策」において大きな問題となっており、その対策が急務なことを認識しています。植生保護柵の設置により植生の回復が見られるようになりましたが、根本的な解決にはなりません。そこでシカの捕獲による植生回復を成功させることが重要ですが、全世界中で成功事例は極めて限られています。柵内の植生回復のデータとともに、2003 年以降に野生生物課が実施してきた委託調査やその他のモニタリングデータを総合的に活用、解析することで、植生回復の過程と指標作成をしていきたいと思います。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	